

# The Hotel Price Index™

世界のホテル宿泊料金の調査 (2012年1月～12月)



Hotels.com

## はじめに

Hotels.comのHotel Price Index™ (HPI®) (以下、ホテル宿泊料金指数またはHPI)は、世界の主要目的地のホテル宿泊料金に関して定期的に調査された報告書です。HPIはHotels.comを通して行われた予約に基づいており、表示されている料金は広告表示料金ではなく、旅行者が実際に支払った一泊一部屋あたりの宿泊料金です。

今年で9年目を迎えたHPIは、世界中で支払われたホテル宿泊料金に関する最も信頼のおける報告書として認められ、メディア、ホテル経営者、金融アナリスト、投資家、観光産業、研究者といった方々に参照ツールとして使われることも増えてきました。

HPI (ホテル宿泊料金指数)とは、世界中でHotels.comを利用した旅行者が実際に支払った一泊一部屋あたりの料金を、Hotels.comが事業対象としている市場で販売された部屋数で加重平均した数値です。

Hotels.comの顧客数、取り扱う物件、対象とする目的地が世界的規模であるため、HPIは最も包括的なベンチマークの1つとなりました。同指数には、チェーン系・独立系ホテルだけでなく、自炊設備付きの宿泊施設やB&B (ベッド・アンド・ブレイクファースト) も含まれています。

本日本語版では、2012年通年の結果を2011年の結果と比較検証しています。Hotels.comのサイトに案内が掲載されている世界各国約20万件のホテルのうち15万5000件を超えるホテルをサンプルとして、その宿泊料金を使用しています。



## 最新版HPIの発刊にあたり

世界のホテル宿泊料金に関する調査報告書、Hotels.comホテル宿泊料金指数の最新版をご覧くださいありがとうございます。

2012年は、宿泊客が支払った平均宿泊料金が3%上昇し、世界のホテル業界に一段の回復が見られた1年でした。回復が早い地域もありましたが、ユーロ圏の影響で世界平均を鈍化されました。また宿泊料金の伸びは3年連続で上昇していますが、いまだに2005年上半期の水準にとどまっています。

## 世界を先導する地域

多くの地域では依然として厳しい状況が続いていますが、出張者と旅行者の支出拡大に努めることで抜き出た地域が3つあります。カリブ海地域は6%増、北米は5%増とここ数年で最高の伸びを記録し、さらに太平洋地域では4%増と、他の地域を上回る伸びとなりました。アジアでは2%増、中南米は1%増、そしてヨーロッパおよび中東は若干低下しました。

## ヨーロッパの低迷

ヨーロッパは国内市場の低迷により、遅れをとっています。ユーロ圏の危機は圏内の宿泊料金への打撃となっただけではなく、財政的な不安によって旅行需要を抑制され、その影響はユーロ圏全体に波及しています。近い将来に経済回復の見込みがないことから、ヨーロッパのホテルは市場の現状に適応し、とりわけ依然として活動的な中国やロシアからの旅行者を取り込む努力が必要です。私から旅行者の皆さんへのアドバイスを聞きたいですか？では、ヨーロッパ旅行への荷造りを始めてくださ

い。現在のまま宿泊料金の低下がこれからも続くとは考えられません。今なら旅行者の皆さんの決断を待っているお得な案件があるはずです。

## ロンドン五輪の効果

2012年の夏にロンドンに滞在された皆さんは、エリザベス女王在位60周年記念祝典や、オリンピックとパラリンピックの開催期間中のロンドンに浸透した熱狂的かつ楽観主義的な雰囲気を感じられたことでしょう。この1年間を通してホテル客室稼働率は概ね好調でしたが、旅行者が当初提示されたオリンピック期間中の高い宿泊料金を受け入れなかったため、予想されていた宿泊料金の驚異的な高さには到達しませんでした。ロンドンの一部屋あたりの平均宿泊料金はオリンピックが近づくとつれ低下し、その後の半年間で、需要を呼び戻すために宿泊料金は一段と引き下げられました。

ロンドンには、新しいホテルの開業や客室改装の増加などで大幅に改善した恩恵を受け、星評価のすべての階級において最も価値の高い都市としての立場を維持しています。脚

光を浴びた2012年、ロンドンが世界の人々の目に触れる機会がこれまでになく多かったことや、今年の夏には英王室に赤ちゃんが誕生することも相まって、ロンドンを訪れる旅行者は増加の一途をたどるでしょう。

ホテル宿泊料金の戦略についてロンドンで学び得た教訓が、2014年ワールドカップと2016年オリンピックの開催を控えるリオデジャネイロでいかに活かされるかは興味深いところです。

## インフラの整備より旅行者はやってくる

2013年に世界の観光業は再び活況を迎えると予想されます\*。接客業界の関心は、宿泊料金の伸びが最も大きく、新たなインフラ整備によって旅行パターンに変化が見える東部へと集まっています。2012年のアジア太平洋地域では、高級市場や経済セクターにより、新規客室数はヨーロッパの2倍に達し2013年に建設される新しい建物の40%の割合を占めます\*\*。中国は今後数年間で、70の新空港を建設し100の既存空港を拡張する計画を進

めています\*\*\*。格安運賃の航空会社の参入も旅行需要を喚起するでしょう。

2013年も楽しみな1年です。当社にとっては、特にヨーロッパにおいて画期的な1年になると予想しています。ヨーロッパ13カ国に加えて、オーストラリアやカナダでもローカライズしたウェブサイトを立て上げて事業を拡大する戦略に着手したのはもう10年前のことになります。この10年間で、ヨーロッパだけでなく中南米、アジア太平洋地域、そしてアフリカでも事業を拡大し、今では85のローカライズしたウェブサイトを全世界で運営しています。

この当社のネットワークの広さは、本報告書にまとめられたデータおよび旅行者の動向が事実に基づいた信頼に値するものであることを示しています。どんなことが起こっているのか。どんなことが流行っているのか。どんなことが時代遅れなのか。その答えはこの報告書の中にあります。

本書を読んで下さってありがとうございます。どうぞ楽しい旅行を。

Hotels.com代表取締役社長

ディビット・ロシエ

\* UNWTO: 世界観光機関「世界観光指標」

\*\* スミス・トラベル・リサーチ社

\*\*\* 中国民用航空局 李家祥  
国際航空運送協会(IATA) 年次総会  
2013年6月

HPIレポートは主に2つのデータソースに重点を置いています。

第1部（第1章）では、2012年のHPI（ホテル宿泊料金指数）を前年までの実績と比較しています。

HPIは、Hotels.com が2012年に取り扱ったすべての旅行をまとめたもので、各国の市場規模を反映させるべく加重しています。Hotels.comは、ホテル宿泊料金の変化を指数化することで、実勢を歪めてしまう為替変動の影響を排除して、宿泊客が実際に支払った料金の変化を説明しています。

HPIでは2004年を100とし、1つ星から5つ星まですべての星評価のホテルの予約を対象にしています。

第2部（第2章～第8章）では、2012年に日本人旅行者が世界のホテルで支払った一泊一部屋あたりの料金を2011年の実績と比較しています。ここでは為替とホテル料金双方の変動を反映させ、日本人旅行者が実際に支払った料金を示しています。第4章で示される数値は、各国通貨建てのホテル予約をまとめたものです。

料金は日本円で四捨五入し、百分率の数値は1パーセントの位で四捨五入しています。

第9章では、2012年に外国人旅行者の人气が最も高かった日本の目的地と、日本人旅行者の人气が最も高かった海外の目的地について説明しています。

最終章ではHotel.comが入手した気軽でお得な情報を中心にご紹介します。

他の通貨建ての報告書もご用意しております。ご希望の場合はhotelsteampr@kyodo-pr.co.jpにご連絡ください。

# 目次

	はじめに	
	最新版HPIの発刊にあたり	
1.	世界の宿泊料金の変化	1
2.	 主要都市の宿泊料金の変化	12
	図表：世界のホテル宿泊料金の変化	22
3.	国別に見る宿泊料金の変化	24
4.	日本の状況	28
	 図表：日本のホテル宿泊料金の変化	29
5.	国内および海外旅行で支払われた宿泊料金	33
6.	一泊15,000円で宿泊できる都市	35
7.	星評価別の平均宿泊料金	37
8.	低料金で贅沢を	41
9.	旅行の傾向	43
	日本人旅行者に人気の海外都市	
	外国人旅行者に人気の国内都市	
10.	旅行の話題	45
	ナイトライフを満喫できる都市	
	タクシー調査	
	アメニティー調査	
	HOTELS.COM 2012年のハイライト	49
	HOTELS.COMについて	51
	詳細についてのお問い合わせ	52

# 1 世界の宿泊料金の 変化

2012年の世界のホテル宿泊料金は平均で前年比3%増となり、HPIは2004年のスタート時より7ポイント高い107ポイントとなりました。4%増となった

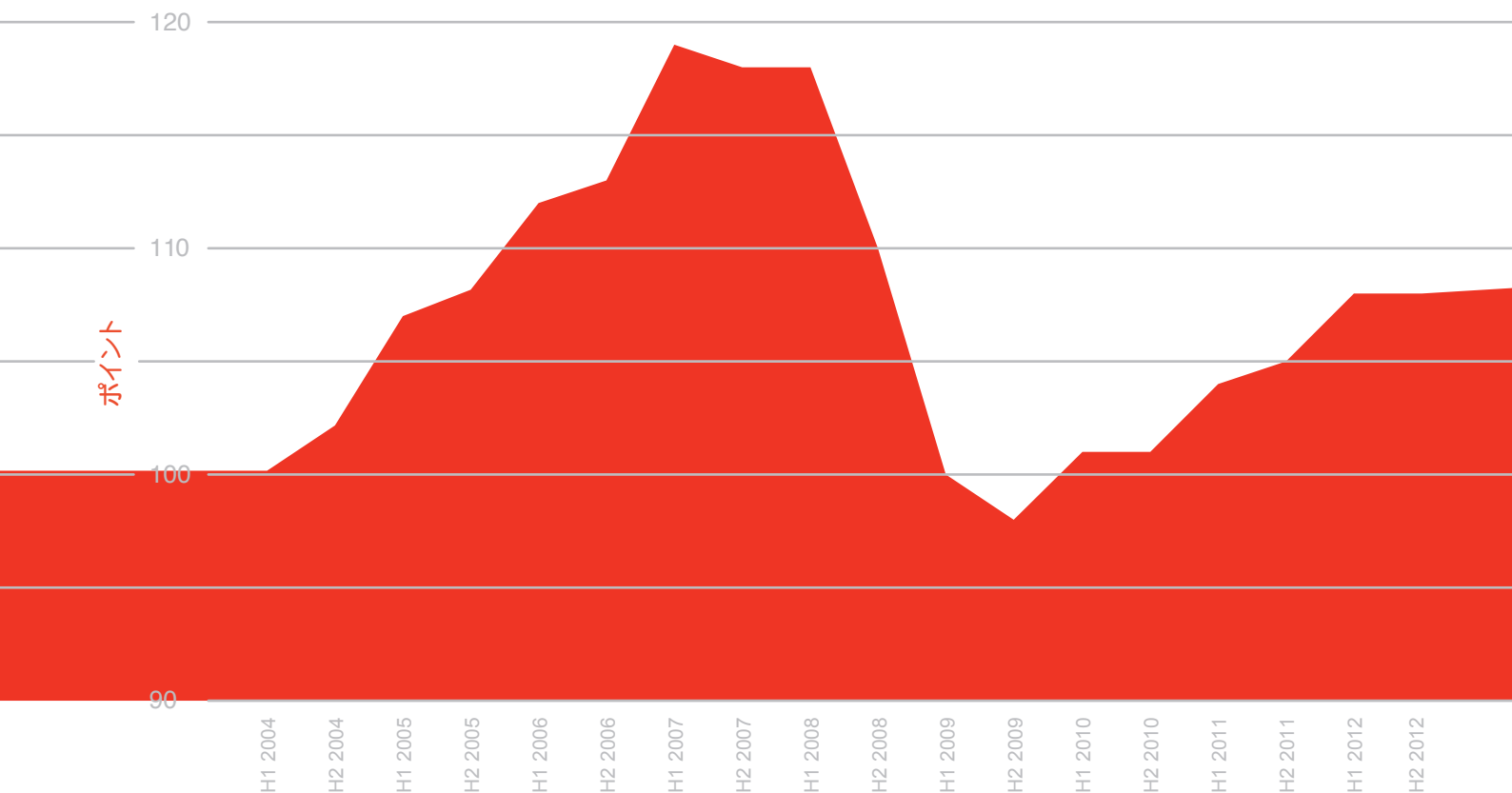
2011年と比較すると、宿泊料金の伸びは鈍化しているのが分かります。

HPIの世界指数が2007年のピーク時の117ポイントを10ポイント下回っており、2005年の106をわずかに上回る水準にとどまったことから、この1年間のホテル宿泊料金は旅行者

にとって依然として割安だったことを示しています。

宿泊料金は、わずかに低下したヨーロッパや中東を除くすべての地域で上昇しました。とりわけカリブ海地域、北米、太平洋地域の上昇が顕著でした。こうした宿泊料金に変化した原因、そして各都市およ

図 1 世界の半期別HPI (2004年～2012年)

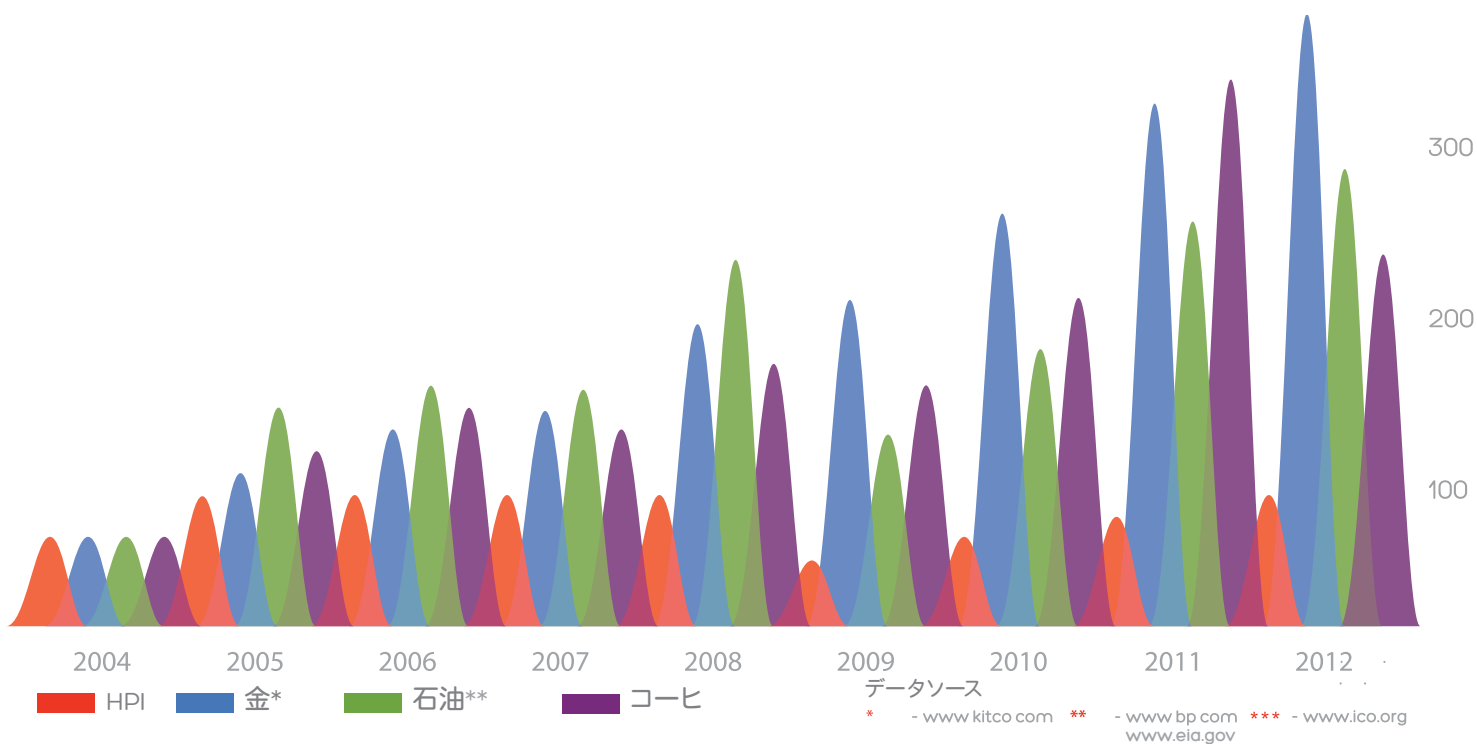


び各国に与えた影響に関する詳細な分析を、本章および後続の章でご説明いたします。

そのまま比較することはできませんが、HPIと金、石油、コーヒーなどのグローバルな商品指数の変動を比較すると、世界のホテル宿泊料金の安定性は明白です。商品価格の変

動幅は非常に大きく、価格も大幅に上昇しているため、ホテル宿泊料金のお得感が一層際立って見えます。2012年末時点で、金の指数は2004年の4倍、石油は3倍、コーヒーは2倍超まで高騰しています。

図2 世界の商品価格とHPIの比較 (2004年～2012年)







Hotels.com  
アジア・パシフィック  
最高経営責任者  
ヨハン・スヴァンストローム

アジア大陸全体では、旅行者や旅行業界の上向きな動向が下支えとなり、宿泊料金は前年比2%増となりました。しかし、全体としては2007年のピークをまだ下回っていることから、旅行者にとってお買い得な目的地がまだ残っていることが分かります。

2012年の宿泊平均料金については、宿泊料金を上下させる

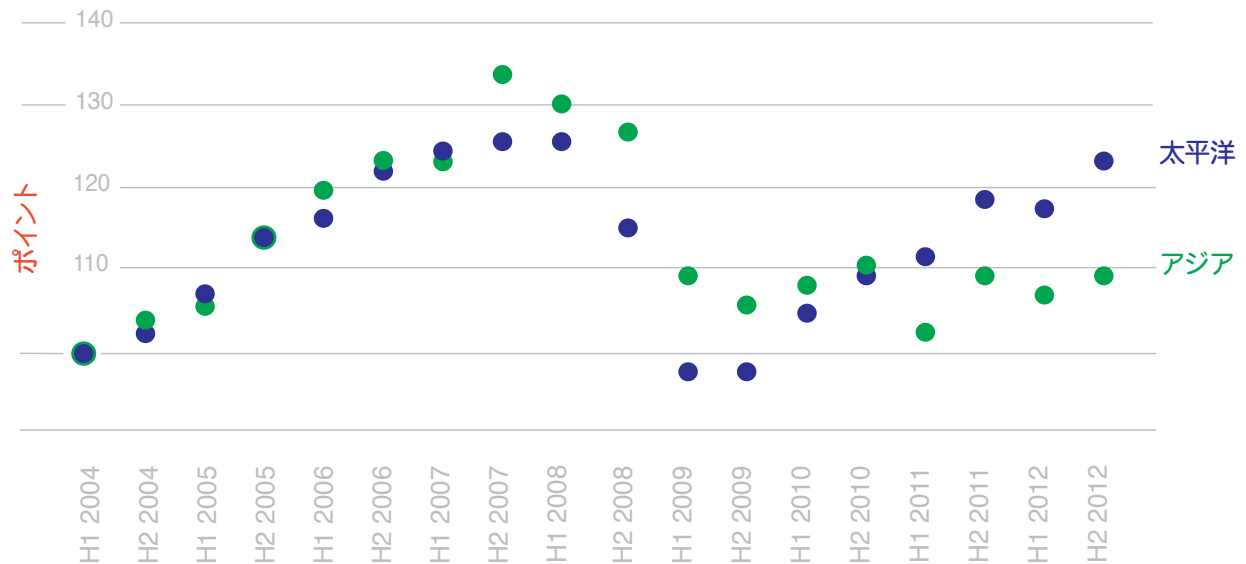
ような出来事が同地域で数多く見られました。例えば、ルピーの急落によりインドのホテル宿泊料金の引き下げ圧力が生じたこと、東シナ海の島々をめぐる政治的緊張の高まりを受けて旅行需要に変化が見られたこと、そして2011年に津波と原発事故に見舞われた日本や、洪水の被害が出たタイで宿泊料金が前年より回復したことなどが挙げられます。シンガポールや香港といった世界有数のビジネス・観光都市の需要は依然として高いものの、香港では25のホテルが開業し、シンガポールの大規模ホテルでは客室の増設が続いたため、宿泊料金の伸びはむしろ緩やかでした。

オーストラリアでは鉱物・資源高の影響でホテルの宿泊料金は引き続き上昇しましたが、インバウンド需要に左右されるレジャー目的地としては厳しい状況でした。中国はイギリスに代わって世界第2位のインバウンド市場となり、このトレンドは当面続くものと思われます。

今後の展望において、次に挙げる2つの大きなトレンドが2013年以降のアジア地域に影

響を与えられると思われます。それは、中国からの海外旅行者がその数と支出の両方において引き続き増加するとともに、格安航空会社の市場が北東アジアで急速に確立されるというものです。いずれのトレンドも旅行者が増加し、今後数年間ホテル業界の開発と投資の拡大が続くことを示唆しています。

図 3 地域別HPI：太平洋、アジア地域 (2004年～2012年)



### 好調な太平洋地域

2012年の太平洋地域の宿泊平均価格は4%増と、主要な市場であるオーストラリアの上昇が要因となり、前年に引き続き上昇しました。これは世界の伸び率を上回っていますが、2011年の8%や2010年の11%と比べると、伸び率は鈍化しています。

2012年の太平洋地域HPIは123で、同じくホテル宿泊料金の上昇がここ数年顕著な中南米と共に2番目に高い数値となりました。

太平洋地域のHPIは2007年のピーク時の127に迫っています。

### 上昇基調のアジア

2012年のアジア地域のホテル宿泊料金は2%増となり、世界の上昇に見劣りはしますが、自然災害や原発事故に見舞われた日本へのアジアおよびアジア以外からの旅行者の足が遠のいた2011年に比べれば好調でした。

2012年のアジア地域HPIは109にとどまり、2007年のピーク時の131には遠く及びません。個々には好調な都市もありますが、2005年の110にも及びません。



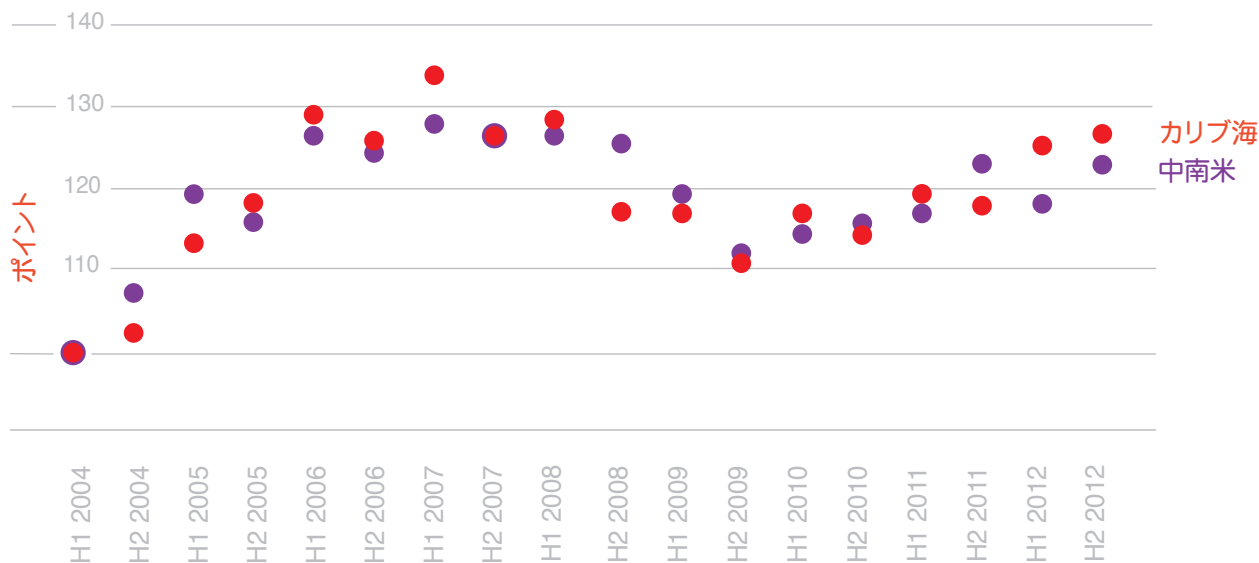
Hotels.com 中南米  
ヴァイスプレジデント  
ハビエル・エスコベド

中南米では、ブラジルとメキシコという2大市場の好景気という恩恵を受け、過去数年間に宿泊客が支払った料金は持続的に伸びています。しかし2つのトレンドにより減速することが予想されています。経済や政治状況の安定性が高い地域では、堅調な内需によりホテルは頻繁な値引きで地元の旅行者を呼び寄せようとする競争状態に陥りました。

中南米最大の市場を擁し、戦略的なプレーヤーであるブラジルは、外国為替相場の変動がほとんど見られなかったため、自国通貨が不安定な状況を脱し、より安定した市場への足場を固めつつあります。

メキシコの旅行業界はこの12カ月間堅調さを維持し、大統領選挙の年という困難もうまく乗り越えました。また、特定の地域のインフラ向上が開発の遅れている地域の発展を促すという状況も活かしてきました。海外目的地への旅行、中でもアメリカへの旅行は引き続き堅調で、景気後退の影響で宿泊料金が低下したヨーロッパも、中南米では人気の旅行先になりました。

図 4 地域別HPI：カリブ海、中南米地域（2004年～2012年）



### 中南米は緩やかに上昇

2012年の中南米の平均宿泊料金はちょうど1%増となり、4%増であった過去2年間と比較すると小幅な伸びで、世界と比べても出遅れました。

2012年の中南米HPIは、主として同地域最大の市場であるブラジルの好景気に支えられて123に達し、ここ数年で大幅な伸びが見られた太平洋地域と並んで2番目の高さでした。

HPIは中南米の宿泊料金が他の地域に比べて世界経済の影響を受けにくいことを示しており、2012年の123は2007年のピーク時の125に最も近く、2006年と同水準です。

### カリブ海地域の価格上昇が最大

この1年間カリブ海地域は好調で、伸び率も6%と世界のどの地域よりも高く、HPIも125で最高でした。

HPIは2006年の127にわずかに届かず、2007年のピーク時に記録した131よりも6ポイント下回っています。



Hotels.com 北米  
ヴァイスプレジデント  
ヴィクター・オーウェンズ

アメリカの旅行業全般は2012年10月に襲来したハリケーン「サンディ」という破壊的な災害に直面しました。報道によると、その被害は東海岸とカリブ海地域で甚大で、9,000便の欠航、300億ドルの物的損害、そして750万件の停電という大規模なものでした。

初動対処要員とクリーンアップ要員による見事なサポートのおかげで、被害のほとんど

は復旧しました。

ホテル業界に話を戻しますと、昨年ホテル宿泊料金が5%増となった北米のHPIは、ホテル経営者にとって明るい兆しです。

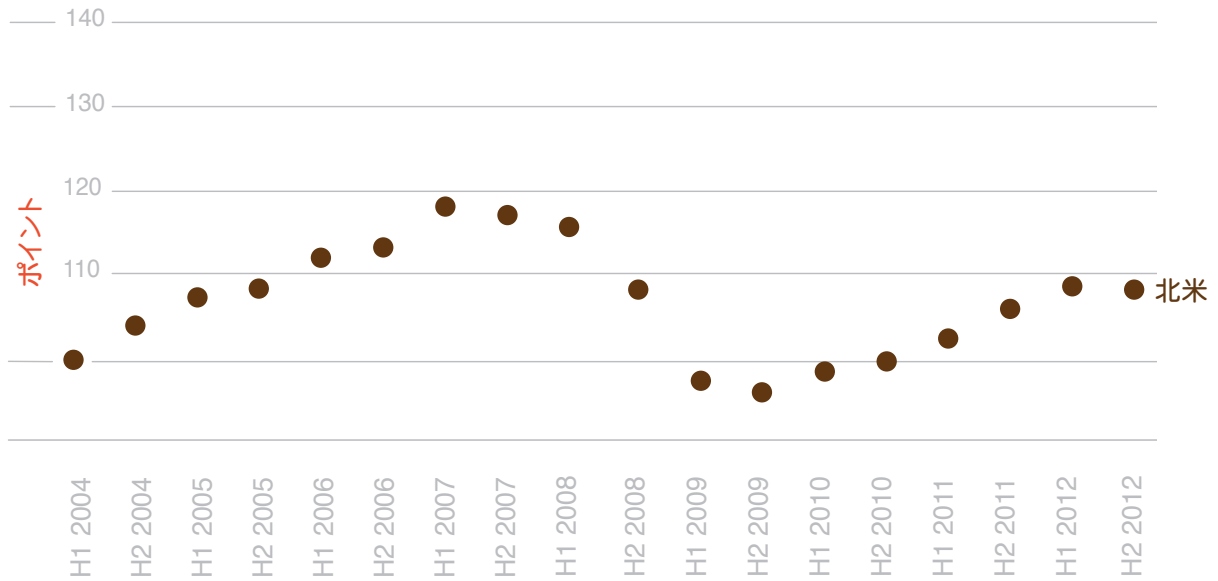
航空会社によるターミナルのアップグレード、長距離飛行が可能なジェット機の増加、ビザ手続きの簡略化により、2012年のアメリカへの外国人渡航者数は増加しました。

アメリカへの旅行者の増加は、より多くの旅行者を呼び込み、様々な楽しいアクティビティやアトラクションに参加してもらうことを目的として2012年1月にアメリカで施行された国家観光戦略によるところが大きいと言えます。

カナダについては、人気都市のトロントが、2012年に最高級ホテルのリストに新たなホテルが加わったことで海外から注目を集めました。高級ホテルが1つの都市に多数存在することは、小売業の市場への信頼が高いことを示しています。

カナダ全般については、アメリカよりも景気は堅調で、海外旅行が大幅に増加したことで旅行業界に注目が集まりました。海外で購入した商品の申告金額が最近引き上げられたことや、カナダドルの上昇も相まって、2013年もアメリカへの旅行者は引き続き多いと予想しています。

図 5 地域別HPI：北米地域 (2004年～2012年)



### 北米も前進

2012年の北米の平均宿泊料金は5%増と世界で2番目に高い伸びを記録し、世界の伸び率を上回ると同時に前年の伸び率に並び、2年連続で好調でした。

旅行者への朗報は、北米のHPIはまだ107と、2007年のピーク時に7ポイント及ばず、2005年と同水準にとどまっており、世界の指数とも一致していることです。

世界の銀行システム崩壊後、アメリカのHPIが最も下落しましたことを考慮した場合、2012年の数値は2009年につけた96から大幅に回復したことを示しています。



Hotels.com  
ヨーロッパ、中東及びアフリカ  
ヴァイスプレジデント  
マシュー・ウォールズ

2012年のヨーロッパ全体のホテル宿泊料金は概ね横ばいですが、平均宿泊料金は、国や目的地レベルの需要に興味深い変化があったことを暗示しています。

明らかな景気後退が特にユーロ圏南部のホテル宿泊料金に大きな影響を及ぼしていることは明白です。ギリシャ、イタリア、トルコのホテル経営者は儉約しなくてはなりませんで

たが、結果的に夏季までに大きく上昇しました。

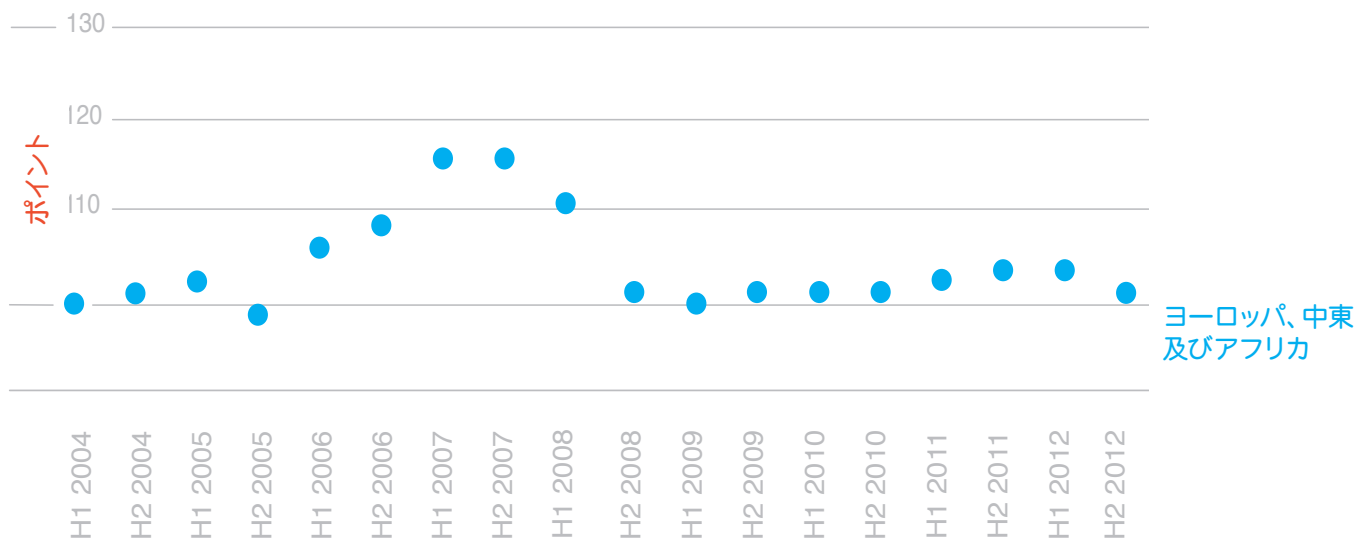
また需要もそれなりに高まったため、経済が比較的健全な国の宿泊料金は上昇しました。ドイツ、ノルウェー、スウェーデンでは、支払われた平均宿泊料金が前年比で上昇し、アイスランドでは2011年の「暗黒の日々」以降大きく回復しました。

長距離飛行が必要な目的地への旅行者数は近距離や国内旅行者に比べればかなり少ないですが、広範な市場への需要に力強い回復が見られました。ヨーロッパからの旅行者が中南米、アメリカ、オーストラリアで支払った平均料金は、堅調な需要に支えられて上昇しました。カリブ海地域のリゾートでは、包括料金を提示して、宿泊客が休日の予算をより正確に管理できるようにしています。

2012年のオリンピックおよびパラリンピックは今年が目玉でした。年初にロンドンのホテル料金が大幅に上昇するなど、スポーツの祭典のおかげでロンドンのホテル宿泊料金は乱高下しました。ロンドン五

輪組織委員会 (LOCOG) がまとめて確保していた部屋を放出し始めると、ホテル経営者は需要が期待していたほど高くないことを悟り、宿泊料金は急激に低下しました。このような調整は、その後の国内需要の高まりと一致しているようです。ホテル市場全体としては、素晴らしいスポーツの祭典の成功に貢献しました。

図 6 地域別HPI：ヨーロッパ、中東及びアフリカ地域（2004年～2012年）



### ヨーロッパと中東では やや減少

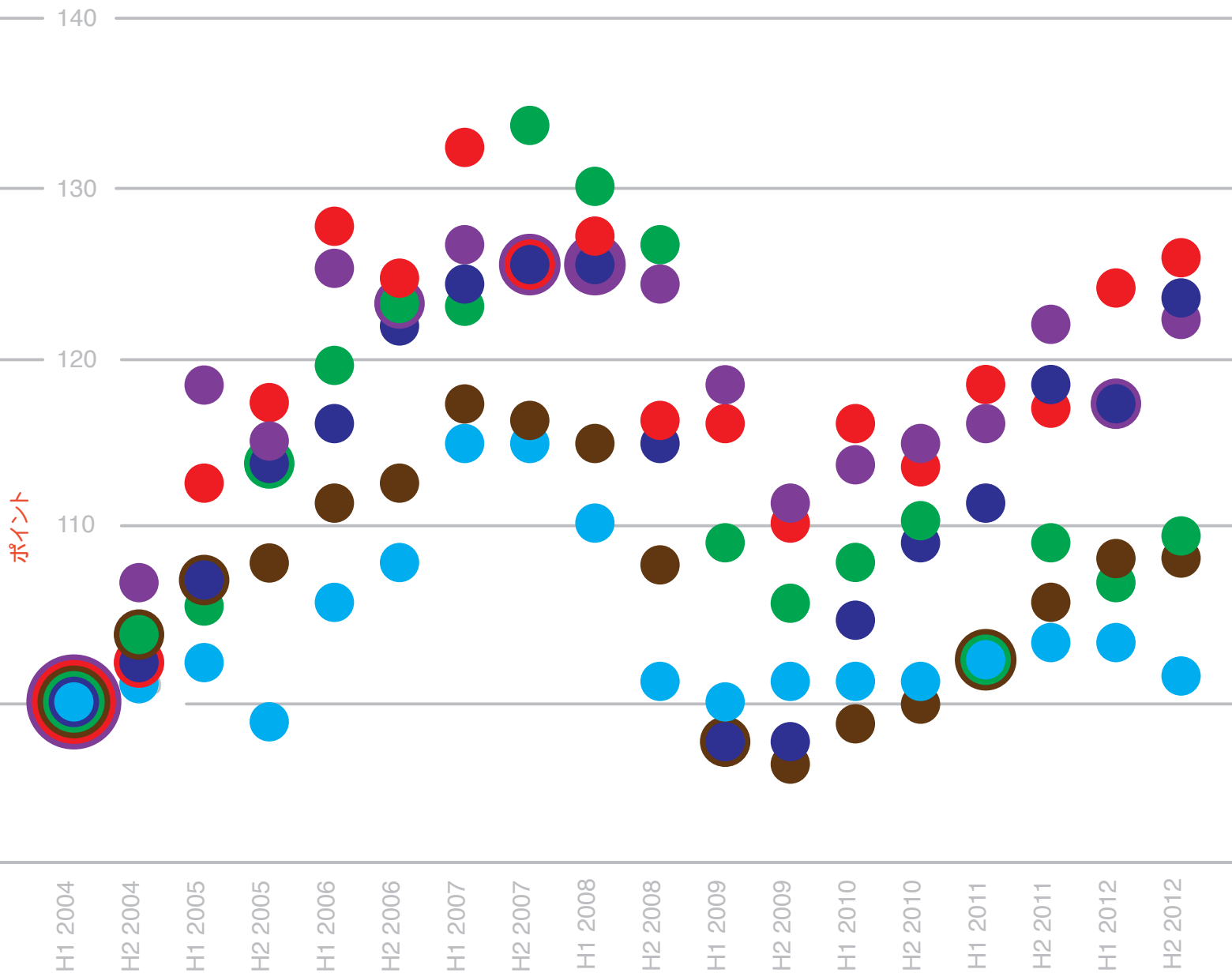
2012年、ヨーロッパおよび中東の平均宿泊料金は新たなパターンをたどり0.5%減と、世界の指数を下回り、2%増を記録した前年をも下回りました。

2012年のヨーロッパおよび中東のHPIは101と世界のどの地域よりも低く、2004年のスタート時を上回っているだけで、2007年のピーク時の116には遠く及びません。

ヨーロッパはユーロ圏経済危機の影響を大きく受け、中東は2011年のアラブの春以降、旅行者の信頼をいまだ取り戻せずにいますが、中には大幅に回復した目的地もありました。



図 7 全地域HPI (2004年～2012年)



## 主要都市の 宿泊料金の変化

ここからは、2012年に日本人旅行者が実際に日本円で支払った料金を前年と比較検証していきます。ただし、第4章は例外で、世界各国からの旅行者が日本国内で支払った料金のデータを示しています。

HPIの対象目的地の半分以上において、日本人旅行者が支

払った料金は減少しており、中でもユーロ圏危機以降のヨーロッパでの減少が顕著に見られます。本報告書が対象とする106の都市のうち、宿泊料金は54の都市で下落し、5つの都市で横ばい、そして47の都市で上昇しました。

### 強弱が入り混じった アジア

2012年のアジア地域全般の宿泊料金が上昇した要因はいくつか考えられます。2011年の

震災後、日本を訪れる旅行者数および日本から海外への旅行者数の回復、格安航空会社の便数増加などが挙げられます。しかし、アジア地域の宿泊料金は上昇したところもあれば下落したところもあり、結果はまちまちでした。

日本を見てみると、2012年の東京の平均宿泊料金は前年比1%減の12,525円、大阪は2%減の9,563円、京都は7%減の12,296円となりました。日本の宿泊料金の変化については、第4章で詳細を説明します。

韓国では、仁川が前年比22%増の9,797円を記録した一方で、最も下落したのが釜山で20%減の12,766円、そしてアジアの中でも日本人旅行者に最も人気の高いソウルは平均でわずかに1%減の14,715円に踏みとどまりました。中国では、成都が14%増の8,734円、広州では12%増の8,716円、北京は4%増の9,448円でした。

アジアの他の主要都市については、プノンペンが17%増の5,934円と過去最高の伸びを記録しましたが、2012年に日本人観光客が支払った料金は全都市の中、一番低い料金と



ロンドン

なりました。それに続いたのがムンバイの14,244円と台北の12,249円でもに6%増となりました。残りの地域は低下し、ハノイが8%減の7,593円、マニラは6%減の7,916円でした。

旅行者の目的地については、全体像にも変化が見られました。日本人旅行者はタイの一部の都市でより多くの料金を支払っており、チェンマイでは13%増の7,301円となりましたが、プーケットは1%減の15,932円でした。また共に10%減となったのがサムイ島とクラビで、それぞれ20,524円と14,089円に、パタヤは6%減の8,077円になりました。また、マレーシアではベナンが13%増の11,501円、ランカウイは7%増の24,883円となり、本報告書が対象とする目的地の中で、日本人旅行者が最も高い平均宿泊料金を支払った目的地となりました。カンボジアで人気のシェムリアップは7%増の6,643円に跳ね上がり、フィリピンのセブも6%増の6,668円となりました。



### 先頭に行くアメリカ

2012年日本人旅行者は、上昇基調の経済のため国内外の旅行者数が二桁成長したのを受け、HPIに含まれるアメリカの18都市のうち13都市で昨年より多くの宿泊料金をホテルに支払いました。

宿泊料金が最も上昇した都市の中で主だったところでは、ボストンが16%増の20,540円、マイアミが14%増の17,512

円、サンフランシスコが9%増の16,835円、もう一つの西海岸の都市サンディエゴも8%増の12,638円となりました。アメリカで宿泊料金が最も高く、宿泊料金表で4番目に高いニューヨークは4%増の23,213円でした。しかしながら、ワシントンD.C.は料金が下落した都市の1つで、2%減の15,749円でした。

最も上昇したのは、2012年の日本人旅行者に最も人気の高かったホノルルで、17%増

の21,808円でした。休日の旅行先として人気の高いその他の都市では、ディズニーランドがあるアナハイムが8%増の15,465円、ニューオリンズが6%増の14,762円でした。その一方で、レイクブエナビスタは4%減の18,564円、テーマパークが集まっているオーランドは2%減の9,838円となりました。

### ユーロ圏危機が宿泊料金低下に拍車

日本人旅行者がヨーロッパで支払った平均宿泊料金は、ユーロ圏の経済状況が要因となって大幅に下落し、その影響が最も大きかった国への旅行および国内旅行を減少させることになりました。

本報告書で対象としているヨーロッパの37の目的地のうち（ユーロ圏内外を含む）24カ所で宿泊料金が低下しました。最も下落幅が大きかったのがストックホルムの18%減で15,241円、次にジュネーブが17%減の19,008円、そしてローマが16%減の15,336円でした。ギリシャの経済問題で頻繁に名前が挙がったアテネは11%減の10,361円でした。

日本人旅行者が最も高い宿泊料金を支払ったのがヨーロッパの目的地はベネチアで、前年比で5%減少しても20,812円と最高だった一方、最も低い都市はワルシャワで8%減の8,534円でした。

今年オリンピックが開催されたロンドンほぼ横ばいの18,822円でした。

宿泊料金が上昇傾向にある目的地では、サンクトペテルブルグが17%増の15,115円、次いでダブリンがここ数年続いていた減少傾向から回復し、12%増の10,205円となりました。古くからドイツ国内でも最高級の客室を有するベルリンは好調で、11%増の11,383円でした。これは需要拡大によるものだけでなく、老朽化した建物を閉鎖し、ニッチで高級志向の客室にアップグレードすることでホテルのストックを改善したことも要因の1つです。

パリは2012年の日本人旅行者に最も人気の高いヨーロッパの目的地で、3%増の19,815円でした。



サンフランシスコ



マラケシュ

## 太平洋地域の上昇を牽引したオーストラリア

オーストラリアでは、その資源高と出張者の増加により、2012年に日本人旅行者が支払った宿泊料金は上昇しました。特にオーストラリア西部での上昇が顕著で、州都のパースでは一部屋あたりの平均宿泊料金が本報告書で最高となる28%増を記録し、同国の平均宿泊料金では最高金額の19,722円まで上昇しました。

オーストラリア東部ではブリズベンが23%増と2番目に伸び率が高く、15,466円まで上昇しました。

## 中南米の揺り戻し

中南米では好調だった目的地もあれば、低調だった目的地もありました。リオデジャネイロは13%増の23,719円と好調で、宿泊料金表全体でみると2番目に高くなりました。2014年のワールドカップと2016年のオリンピックの開催を控え、今後数年間は、こうした世界的な祭典の開催がホテルの平均宿泊料金にどのような影響

を及ぼすかは興味深いところです。

メキシコのカリブ海リゾートであるカンクンは10%増で平均宿泊料金が22,225円に到達しましたが、プエノスアイレスは7%減の10,299円、メキシコシティは2%減の9,066円、そしてサンパウロは1%減の14,126円となりました。

## アラビアンナイト

中東および北アフリカ地域については、その政治状況が落ち着きを取り戻しつつあることから、アブダビが10%増の15,640円、宿泊料金表で第3位のドバイは3%増の23,221円、そしてマラケシュは7%増の13,720円となりました。

図 8 2012年宿泊料金の前年比上昇率が高い都市

30%  
20%  
10%  
0%  
-10%  
-20%

パース  
ブリスベン  
仁川  
ホノルル  
サンクトペテルブルグ  
プリンペン  
ボストン  
マイアミ  
成都  
リオデジャネイロ  
ペナン  
チェンマイ  
ダブリン  
広州  
ベルリン  
カンクン  
アブダビ  
タムニン  
サンフランシスコ  
アナハイム  
サンディエゴ  
ランカウイ  
マラケシュ  
メルボルン



図 9 2012年宿泊料金の前年比下落率が高い都市

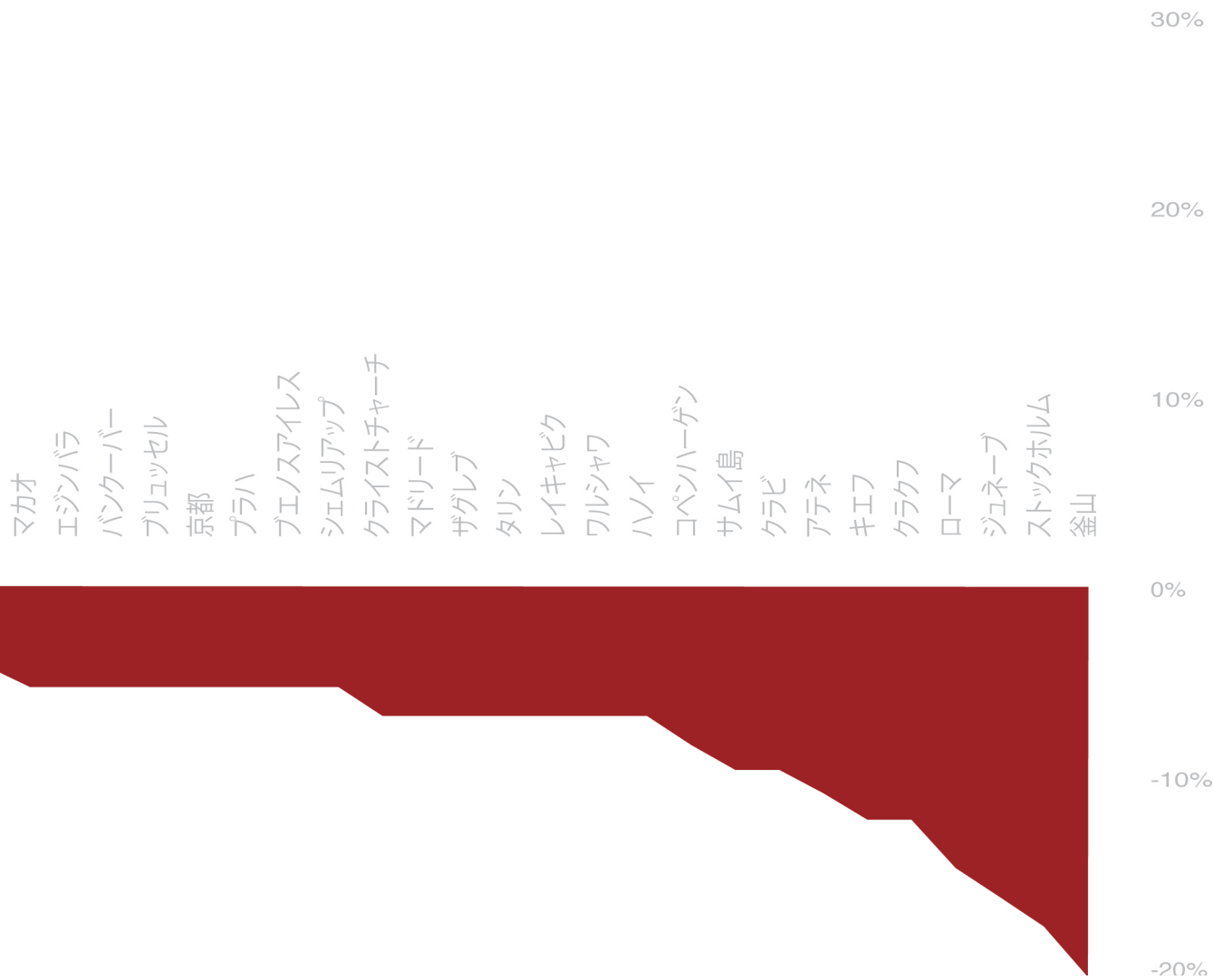


表1 2012年の平均宿泊料金および前年比変化率(通貨:円)

都市名	2012	2011	変化率	都市名	2012	2011	変化率
ランカウイ	24,983	23,305	7%	アブダビ	15,640	14,248	10%
リオデジャネイロ	23,719	21,009	13%	タムニン	15,564	14,212	10%
ドバイ	23,221	22,587	3%	アムステルダム	15,514	15,009	3%
ニューヨーク	23,213	22,291	4%	ブリズベン	15,466	12,554	23%
キーウェスト	22,303	21,324	5%	アナハイム	15,465	14,382	8%
カンクン	22,225	20,189	10%	ローマ	15,336	18,230	-16%
ホノルル	21,808	18,692	17%	ストックホルム	15,241	18,564	-18%
シンガポール	21,019	21,453	-2%	サンクトペテルブルグ	15,115	12,925	17%
ベネチア	20,812	21,982	-5%	エジンバラ	14,875	15,964	-7%
ボストン	20,540	17,753	16%	ニューオリンズ	14,762	13,867	6%
サムイ島	20,524	22,742	-10%	ソウル	14,715	14,800	-1%
パリ	19,815	19,225	3%	バルセロナ	14,596	15,502	-6%
パース	19,722	15,372	28%	シアトル	14,462	13,979	3%
ジュネーブ	19,008	22,921	-17%	ムンバイ	14,244	13,399	6%
ロンドン	18,822	18,770	0%	ホアヒン	14,143	14,073	0%
レイクブエナビスタ	18,564	19,246	-4%	サンパウロ	14,126	14,257	-1%
香港	18,279	18,021	1%	クラビ	14,089	15,617	-10%
マイアミ	17,512	15,394	14%	ウィーン	14,047	14,903	-6%
モスクワ	17,077	16,785	2%	シカゴ	13,926	14,322	-3%
マカオ	17,061	18,280	-7%	ロサンゼルス	13,811	13,523	2%
ミラノ	16,908	17,596	-4%	済州島	13,751	12,918	6%
サンフランシスコ	16,835	15,437	9%	マラケシュ	13,720	12,792	7%
チューリッヒ	16,672	17,572	-5%	オスロ	13,660	13,983	-2%
フィレンツェ	16,593	16,329	2%	ミュンヘン	13,639	13,080	4%
パリ	16,373	17,121	-4%	コペンハーゲン	13,465	14,771	-9%
シドニー	16,290	15,608	4%	ヘルシンキ	13,407	13,440	0%
プーケット	15,932	16,144	-1%	メルボルン	13,312	12,391	7%
フォートローダーデール	15,885	15,579	2%	バンクーバー	13,105	14,124	-7%
ワシントンD.C.	15,749	16,142	-2%	イスタンブール	12,837	12,634	2%
				ブリュッセル	12,836	13,814	-7%



都市名	2012	2011	変化率
釜山	12,766	15,948	-20%
サンディエゴ	12,638	11,721	8%
東京	12,525	12,410	1%
モントリオール	12,504	13,001	-4%
京都	12,296	13,193	-7%
台北	12,249	11,578	6%
フランクフルト	12,220	12,280	0%
キエフ	11,948	13,728	-13%
ラスベガス	11,730	11,261	4%
ブラハ	11,718	12,538	-7%
ペナン	11,501	10,177	13%
デリー	11,439	11,947	-4%
ベルリン	11,383	10,276	11%
クライストチャーチ	11,288	12,303	-8%
リスボン	11,020	11,433	-4%
マドリード	10,864	11,758	-8%
ブダペスト	10,484	10,893	-4%
ジャカルタ	10,439	10,453	0%
アテネ	10,361	11,669	-11%
ブエノスアイレス	10,299	11,055	-7%
ダブリン	10,205	9,150	12%
オーランド	9,838	10,076	-2%

都市名	2012	2011	変化率
仁川	9,797	8,041	22%
ザグレブ	9,793	10,594	-8%
タリン	9,750	10,629	-8%
クアラルンプール	9,715	9,953	-2%
大阪	9,563	9,724	-2%
北京	9,448	9,097	4%
オークランド	9,360	8,873	5%
メキシコシティ	9,066	9,290	-2%
レイキャビク	8,912	9,690	-8%
成都	8,734	7,633	14%
広州	8,716	7,782	12%
上海	8,646	8,913	-3%
ワルシャワ	8,534	9,239	-8%
バンコク	8,342	8,545	-2%
ホーチミン	8,320	8,750	-5%
パタヤ	8,077	8,568	-6%
マニラ	7,916	8,456	-6%
ウェリントン	7,718	8,010	-4%
ハノイ	7,593	8,220	-8%
クラクフ	7,584	8,753	-13%
チェンマイ	7,301	6,458	13%
セブ	6,668	6,263	6%
シエムリアップ	6,643	7,107	-7%
プノンペン	5,934	5,082	17%

表2 2012年宿泊料金の前年比上昇率が高い都市  
(通貨:円)

都市名	2012	2011	変化率
パース	19,722	15,372	28%
プリズベン	15,466	12,554	23%
仁川	9,797	8,041	22%
ホノルル	21,808	18,692	17%
サンクトペテルブルグ	15,115	12,925	17%
プノンペン	5,934	5,082	17%
ボストン	20,540	17,753	16%
マイアミ	17,512	15,394	14%
成都	8,734	7,633	14%
リオデジャネイロ	23,719	21,009	13%
ペナン	11,501	10,177	13%
チェンマイ	7,301	6,458	13%
ダブリン	10,205	9,150	12%
広州	8,716	7,782	12%
ベルリン	11,383	10,276	11%
カンクン	22,225	20,189	10%
アブダビ	15,640	14,248	10%
タムニン	15,564	14,212	10%
サンフランシスコ	16,835	15,437	9%
アナハイム	15,465	14,382	8%
サンディエゴ	12,638	11,721	8%
ランカウイ	24,983	23,305	7%
マラケシュ	13,720	12,792	7%
メルボルン	13,312	12,391	7%

表3 宿泊料金の前年比下落率が高い都市  
(通貨:円)

都市名	2012	2011	変化率
釜山	12,766	15,948	-20%
ストックホルム	15,241	18,564	-18%
ジュネーブ	19,008	22,921	-17%
ローマ	15,336	18,230	-16%
キエフ	11,948	13,728	-13%
クラクフ	7,584	8,753	-13%
アテネ	10,361	11,669	-11%
サムイ島	20,524	22,742	-10%
クラビ	14,089	15,617	-10%
コペンハーゲン	13,465	14,771	-9%
クライストチャーチ	11,288	12,303	-8%
マドリッド	10,864	11,758	-8%
ザグレブ	9,793	10,594	-8%
タリン	9,750	10,629	-8%
レイキャビク	8,912	9,690	-8%
ワルシャワ	8,534	9,239	-8%
ハノイ	7,593	8,220	-8%
マカオ	17,061	18,280	-7%
エジンバラ	14,875	15,964	-7%
バンクーバー	13,105	14,124	-7%
ブリュッセル	12,836	13,814	-7%
京都	12,296	13,193	-7%
プラハ	11,718	12,538	-7%
ブエノスアイレス	10,299	11,055	-7%
シエムリアップ	6,643	7,107	-7%

表 4 格安な休暇向けの都市

都市名	価格
ワルシャワ	8,534
レイキャビク	8,912
タリン	9,750
ザグレブ	9,793
ダブリン	10,205
アテネ	10,361
ブダペスト	10,484
マドリード	10,864
リスボン	11,020
ベルリン	11,383

表 5 格安なバックパッカー向けの目的地

都市名	価格
セブ	6,668
フィジー	11,371
ペナン	11,501
濟州島	13,751
ブーケット	15,932
パリ	16,373
香港	18,279
サムイ島	20,524
キーウェスト	22,303
ランカウイ	24,983

表 6 宿泊料金が最も高いアメリカの目的地

都市名	価格
ニューヨーク	23,213
キーウェスト	22,303
ホノルル	21,808
ボストン	20,540
レイクブエナビスタ	18,564
マイアミ	17,512
サンフランシスコ	16,835
フォート	15,885
ローダーデール	
ワシントンD.C.	15,749
アナハイム	15,465

表 7 世界のトップショッピング都市

都市名	価格
ドバイ	23,221
ニューヨーク	23,213
シンガポール	21,019
パリ	19,815
ロンドン	18,822
香港	18,279
ミラノ	16,908
バルセロナ	14,596
ベルリン	11,383
バンコク	8,342

表 8 ナイトライフを満喫できる都市 \*

都市名	価格
ニューヨーク	23,213
ラスベガス	11,730
ロンドン	18,822
パリ	19,815
バルセロナ	14,596
ベルリン	11,383
アムステルダム	15,514
マドリード	10,864
ロサンゼルス	13,811
バンコク	8,342

表 9 世界の経済大国

都市名	価格
アメリカ合衆国	16,934
中国	8,757
日本	11,143
ドイツ	12,053
フランス	17,759
ブラジル	17,950
イギリス	16,913
イタリア	16,026
インド	11,307
ロシア	15,713

表 10 ロマン스에最適な都市

都市名	価格
シエムリアップ	6,643
ローマ	15,336
ブーケット	15,932
パリ	16,373
フィレンツェ	16,593
パリ	19,815
サムイ島	20,524
ベネチア	20,812
ニューヨーク	23,213
ランカウイ	24,983

表 11 ミシュランガイドの3つ星レストランの数が多い都市

都市名	価格
東京	12,525
パリ	19,815
ニューヨーク	23,213
京都	12,296
香港	18,279
大阪	9,563
ロンドン	18,822
シカゴ	13,926
マカオ	17,061
ローマ	15,336

\*Hotels.comが世界27,000人の旅行者を対象に調査

# 世界のホテル宿泊料金の変動



スロ  
660  
2%

キエフ  
11,948  
↓13%

アテネ  
10,361  
↓11%

アブダビ  
15,640  
↑10%

ムンバイ  
14,244  
↑6%

シンガポール  
21,019  
↓2%

パース  
19,722  
↑28%

上海  
8,646  
↓3%

香港  
18,279  
↑1%

東京  
12,525  
↑1%

シドニー  
16,290  
↑4%

## 国別に見る宿泊料金の变化

2012年に日本人旅行者が支払った宿泊料金は、HPIの対象国のおよそ3分の2の国において減少しました。ユーロ圏の困難な経済状況が原因で最も減少したのがヨーロッパですが、アジアの一部でも数パーセントの減少が見られました。

国別の宿泊料金表では、アジア14カ国のうち最も減少したイ

ンドネシアは10%減の13,372円で、次いでタイが7%減の9,735円、マレーシアが6%減の11,557円、そして日本自体も4%減の11,143円となりました。日本人旅行者が支払った宿泊料金が最高だったのがシンガポールで、前年比2%減少したにもかかわらず21,019円を記録しました。その一方で、日本人旅行者が支払った宿泊料金が最低だったのがカンボジアで、4%減の6,398円でした。スリランカは最も好調だった国の1つで、前年比10%増の16,907円に達しました。

ヨーロッパの日本人旅行者にとっては、本報告書の対象であるヨーロッパ24カ国中18カ国で宿泊料金が減少したことは朗報でした。中でも減少幅が大きかったのが12%減のスウェーデンとウクライナで、宿泊料金はそれぞれ14,734円と11,846円まで落ち込みました。平均宿泊料金がヨーロッパで最も高かったのはスイスで、前年比9%減少したにもかかわらず17,892円を維持しました。その一方で、ヨーロッパで平均宿泊料金が最低だったポーランドは10%減の8,054円でした。ユーロ圏経済危機の影響が大きかった国では、ギリシャとポルトガルがともに9%減で、それぞれ12,917円と10,610円に減少し、スペインは6%減の12,685円でした。

中東および北アフリカの多くの国で政治的緊張が緩和したのを受け、イスラエルは13%増の14,248円に伸び、アブダビとドバイが牽引したアラブ首長国連邦は9%増の22,919円を記録し、平均宿泊料金表でトップの座に就きました。急落したエジプトは14%減の7,907円でした。



オーストラリア



中南米では、チリが24%減と急落して9,864円に、またアルゼンチンは5%減の11,156円になりました。一方反転した国ではペルーが9%増の14,996円、共に6%の伸びとなったメキシコとコスタリカは、それぞれ14,814円と10,579円に上昇し、次いでブラジルは5%増の17,950円となりました。

上記以外の地域では、堅調な経済に支えられたアメリカとオーストラリアが共に6%の伸びを見せ、それぞれ16,934円と15,139円に上昇しました。

本報告書が対象とする55カ国のうち、日本人旅行者が支払った宿泊料金が前年比で上昇した国は20カ国、変わらなか

った国が1カ国、そして減少した国は34カ国でした。

表 12 国別の2012年の平均宿泊料金と前年比変化率（通貨：円）

国名	2012	2011	変化率	国名	2012	2011	変化率
アラブ首長国連邦	22,919	20,992	9%	ベルギー	12,498	13,480	-7%
シンガポール	21,019	21,453	-2%	ドイツ	12,053	12,174	-1%
香港	18,279	18,021	1%	ウクライナ	11,846	13,472	-12%
ブラジル	17,950	17,158	5%	台湾	11,693	11,203	4%
スイス	17,892	19,665	-9%	チェコ	11,635	12,498	-7%
フランス	17,759	17,467	2%	南アフリカ	11,578	12,122	-4%
アメリカ合衆国	16,934	15,936	6%	マレーシア	11,557	12,237	-6%
イギリス	16,913	16,676	1%	モロッコ	11,395	11,028	3%
スリランカ	16,907	15,389	10%	フィジー	11,371	13,222	-14%
イタリア	16,026	17,587	-9%	インド	11,307	11,959	-5%
ロシア	15,713	14,807	6%	アルゼンチン	11,156	11,767	-5%
オーストラリア	15,139	14,301	6%	日本	11,143	11,548	-4%
ペルー	14,996	13,780	9%	ポルトガル	10,610	11,687	-9%
ドミニカ共和国	14,966	13,124	14%	コスタリカ	10,579	10,026	6%
ノルウェー	14,934	15,310	-2%	ハンガリー	10,447	10,836	-4%
メキシコ	14,814	13,974	6%	アイルランド	10,170	9,541	7%
スウェーデン	14,734	16,837	-12%	ニュージーランド	9,948	9,573	4%
韓国	14,595	14,681	-1%	チリ	9,864	13,054	-24%
イスラエル	14,248	12,647	13%	エストニア	9,750	10,629	-8%
オランダ	14,074	13,995	1%	タイ	9,735	10,521	-7%
カナダ	13,792	14,239	-3%	フィリピン	9,663	9,731	-1%
オーストリア	13,784	14,572	-5%	アイスランド	9,192	9,717	-5%
デンマーク	13,570	14,799	-8%	中国	8,757	8,800	0%
インドネシア	13,372	14,852	-10%	ベトナム	8,628	9,011	-4%
フィンランド	13,336	13,449	-1%	ポーランド	8,054	8,927	-10%
ギリシャ	12,917	14,260	-9%	エジプト	7,907	9,213	-14%
トルコ	12,783	12,360	3%	カンボジア	6,398	6,666	-4%
スペイン	12,685	13,450	-6%				



表 13 2012年の宿泊料金の前年比増加率が最も高い国

国名	2012	2011	変化率
ドミニカ共和国	14,966	13,124	14%
イスラエル	14,248	12,647	13%
スリランカ	16,907	15,389	10%
アラブ首長国連邦	22,919	20,992	9%
ペルー	14,996	13,780	9%
アイルランド	10,170	9,541	7%
アメリカ合衆国	16,934	15,936	6%
ロシア	15,713	14,807	6%
メキシコ	14,814	13,974	6%
オーストラリア	15,139	14,301	6%
コスタリカ	10,579	10,026	6%
ブラジル	17,950	17,158	5%
台湾	11,693	11,203	4%
ニュージーランド	9,948	9,573	4%
トルコ	12,783	12,360	3%
モロッコ	11,395	11,028	3%

表 14 2012年の宿泊料金の前年比下落率が最も高い国

都市名	2012	2011	変化率
チリ	9,864	13,054	-24%
エジプト	7,907	9,213	-14%
フィジー	11,371	13,222	-14%
スウェーデン	14,734	16,837	-12%
ウクライナ	11,846	13,472	-12%
インドネシア	13,372	14,852	-10%
ポーランド	8,054	8,927	-10%
ギリシャ	12,917	14,260	-9%
ポルトガル	10,610	11,687	-9%
スイス	17,892	19,665	-9%
イタリア	16,026	17,587	-9%
デンマーク	13,570	14,799	-8%
エストニア	9,750	10,629	-8%
タイ	9,735	10,521	-7%
ベルギー	12,498	13,480	-7%
チェコ共和国	11,635	12,498	-7%
スペイン	12,685	13,450	-6%
マレーシア	11,557	12,237	-6%
インド	11,307	11,959	-5%
オーストリア	13,784	14,572	-5%
アイスランド	9,192	9,717	-5%
アルゼンチン	11,156	11,767	-5%

## 日本の状況

この章では、全旅行者が日本で支払った金額について取り扱います。ホテル宿泊客が支払う平均的な料金は2012年に全体で2%増加し、全国で11,242円となっていますが、このことから個々の目的地によって料金の変動が大きいことがわかりません。本報告書の28の目的地のうち、平均額は12カ所で上がり、1カ所で変わらず、15カ所で下がっています。

日本の観光は昨年の出だしは好調で、海外からの旅行者数

が増加したことは、2011年初頭に起こった地震、津波、原発事故の影響により減少していたことを考えると特に歓迎すべきことでした。特に格安航空会社が初めての利用客を中心とする需要をアおり、列車などほかの輸送機関との競争に拍車をかけました。中国人旅行者に対するビザの規制緩和も、観光業に恩恵をもたらし、国内の観光地の多くが中国人旅行者の増加により利益を得ました。

しかし昨年後半の日本と中国、韓国との間の問題で、特に中国人旅行者の多くが海外旅行先を韓国に変更したことから、訪日観光の二大市場から

の客数は再び下降しました。

旅行者が支払った平均額が最も高かった目的地は、東京ディズニーランドのある浦安で、4%減少して20,945円。一方最も低かったのは熊本で、8%減少して5,825円でした。

大幅な増加を見せた目的地は、46%増加し7,073円となった宇都宮と、続いて45%増加し9,840円となった八王子の2カ所でしたが、その他にも大きな変動のあった場所があります。東京からの旅行者に人気の場所、軽井沢は25%減少して13,498円、沖縄市は23%減で10,967円、仙台は20%減で8,813円となりました。

日本の大都市で結果が良かったのは、5%増加で8,023円の名古屋、4%増で12,621円の東京、3%増で8,745円の札幌。一方横浜は2%減の10,040円、神戸は1%減の11,578円でした。



京都

札幌  
8,745  
↑3%

宇都宮  
7,073  
↑46%

新潟  
6,931  
↑1%

岡山  
9,776  
↓12%

名古屋  
8,023  
↑5%

東京  
12,621  
↑4%

広島  
9,218  
↑1%

鹿児島  
7,492  
↑3%

表 15 国内の2011年と比較した2012年の平均宿泊料金（通貨：円）

都市名	2012	2011	変化率
浦安	20,945	21,760	-4%
大津	15,555	16,369	-5%
軽井沢	13,498	18,089	-25%
東京	12,621	12,147	4%
千葉	12,188	12,196	0%
京都	12,142	12,041	1%
奈良	11,676	12,730	-8%
神戸	11,578	11,700	-1%
沖縄市	10,967	14,335	-23%
横浜	10,040	10,209	-2%
八王子	9,840	6,806	45%
岡山	9,776	11,107	-12%
小樽	9,692	11,725	-17%
泉佐野	9,667	10,538	-8%
広島	9,218	9,163	1%
大阪	8,932	8,742	2%
仙台	8,813	11,003	-20%
札幌	8,745	8,519	3%
福岡	8,600	8,257	4%
名古屋	8,023	7,674	5%
長崎	7,874	8,357	-6%
那覇	7,858	8,606	-9%
鹿児島	7,492	7,247	3%
姫路	7,323	7,085	3%
宇都宮	7,073	4,840	46%
川崎	7,004	7,235	-3%

## 最もお金を使う旅行者

新しい調査によって、国ごとの日本での平均宿泊料金が、初めて本報告書に掲載されました。本報告書の28カ国のうち、この章で前述した日本における全体的な料金の上昇を反映し、19カ国が国全体で前年と比べて2012年に支払い金額が増加しており、9カ国のみで支払い金額が減少しています。

表の最高額と最低額の差は一泊3,901円で、アメリカからの旅行者が日本での宿泊に最もお金を使い、2011年からは5%減って13,109円、続いてブラジル人旅行者が、3%増の12,549円、3位はオーストラリア人旅行者で8%増の12,387円となっています。

これ以降の上位10位内の国々は多様で、ヨーロッパが3カ国、アジアが2カ国、中南米と太平洋諸国が1カ国ずつ入っています。ヨーロッパの国のうち最もお金を支払ったのは4位のイギリスで、7%増の12,222円、アジアの国のうち最も高かったのは5位の中国で、9%増の12,083円でした。

メキシコが最も増加率が大きく、46%増の12,051円で6位になりました。またベルギーの減少率が最も大きく、25%減の9,994円で24位になりました。

日本を訪れる数が最も多い韓国からの旅行者の支払額が最も少なく、2011年から4%増の9,208円で、次いで2%減で9,743円のスペイン、5%増の9,840円の台湾でした。



日本

表 16 国別の2011年と比較した2012年の平均宿泊料金（通貨：円）

順位	国名	2012	2011	変化率	順位	国名	2012	2011	変化率
1	アメリカ合衆国	13,109	12,458	5%	15	デンマーク	11,302	11,215	1%
2	ブラジル	12,549	12,145	3%	16	オーストリア	11,216	9,615	17%
3	オーストラリア	12,387	11,446	8%	17	インド	11,094	13,771	-19%
4	イギリス	12,222	11,379	7%	18	オランダ	10,484	11,406	-8%
5	中国	12,083	11,055	9%	19	ロシア	10,466	11,803	-11%
6	メキシコ	12,051	8,270	46%	20	香港	10,374	9,225	12%
7	ノルウェー	11,981	11,179	7%	21	フランス	10,367	10,066	3%
8	ニュージーランド	11,944	10,407	15%	22	イタリア	10,329	10,229	1%
9	シンガポール	11,777	11,239	5%	23	ドイツ	10,316	10,472	-1%
10	スイス	11,726	12,509	-6%	24	ベルギー	9,994	13,319	-25%
11	カナダ	11,646	11,283	3%	25	フィンランド	9,969	10,141	-2%
12	タイ	11,559	11,405	1%	26	台湾	9,840	9,348	5%
13	スウェーデン	11,534	11,199	3%	27	スペイン	9,743	9,894	-2%
14	アイルランド	11,347	11,496	-1%	28	韓国	9,208	8,828	4%
					28	韓国	9,208	8,828	4%

## 国内および海外旅行で支払われた宿泊料金

### 海外旅行

日本人旅行者は、表によると海外で最もお金を使い、やはり一泊の平均で14,862円、続いてオーストラリア人13,867円、アメリカ人13,628円となっています。

スイス人の支払額がヨーロッパでは最も高く、4位で13,572円。上位10位内にはその他3カ国のヨーロッパの国々が入っており、ノルウェーが6位で13,319円、ロシアが8位で12,809円、イギリスが10位で12,608円でした。上位10位の残りは中南米の2カ国で、ブラジルが7位13,080円、アルゼンチンが12,741円となっています。

すべての国のうちスペイン人が最も抜け目なく、平均支払額は表の最低額である10,461円、次いでオランダが10,582円、メキシコが10,672円でした。

### 国内旅行

表の最高額と最低額の差は8,386円で、平均額が11,210円の日本人旅行者は、国内旅行で最もお金を使う旅行者の12位になっています。

スイス人旅行者の国内旅行一泊当たりの支払額が15,410円と最も多く、続いてシンガポールが14,887円で2位、ノルウェーが14,746円で3位でした。

オーストラリアが4位14,198円で、上位10位内にアジアの国がさらに2カ国あり、6位12,391円の韓国と、7位12,349円の香港でした。ヨーロッパでは、スウェーデンが5位で12,904円、デンマークが8位で11,882円、ロシアが9位で11,814円でした。上位10カ国を締めくくるのは10位11,447円のカナダとなっています。

表の一番下は最も手頃な国内旅行、一泊7,042円のインド、次いでポルトガル7,219円とスペイン7,462円となっています。

### 海外と国内で支払いが多いのは？

分析した29カ国中、20カ国が国内より海外で多く支払っており、中にはそれぞれの合計の差が非常に大きい国もありました。中国人旅行者は海外で一泊平均5,233円多く支払い、次いでアルゼンチン人が4,269円、インド人が4,194円となっています。日本人も同様に、国を離れて海外に行くと3,652円多く支払っています。

海外より国内で多く支払っているのは9カ国のみ。シンガポール人の差が最も多く、海外より国内で3,400円多く支払い、次いでスイス人が1,838円、ノルウェー人が1,427円となっています。

表 17 2012年海外および国内旅行で支払われた宿泊料金（通貨：円）

海外		国内	
順位	国名	順位	国名
1	日本	1	スイス
2	オーストラリア	2	シンガポール
3	アメリカ合衆国	3	ノルウェー
4	スイス	4	オーストラリア
5	中国	5	スウェーデン
6	ノルウェー	6	韓国
7	ブラジル	7	香港
8	ロシア	8	デンマーク
9	アルゼンチン	9	ロシア
10	イギリス	10	カナダ
11	ニュージーランド	11	フィンランド
12	スウェーデン	12	日本
13	カナダ	13	ブラジル
14	コロンビア	14	コロンビア
15	オーストリア	15	イギリス
16	アイルランド	16	アメリカ合衆国
17	シンガポール	17	オーストリア
18	香港	18	オランダ
19	デンマーク	19	メキシコ
20	韓国	20	ドイツ
21	インド	21	イタリア
22	イタリア	22	アイルランド
23	フィンランド	23	ニュージーランド
24	フランス	24	アルゼンチン
25	ドイツ	25	フランス
26	ポルトガル	26	中国
27	メキシコ	27	スペイン
28	オランダ	28	ポルトガル
29	スペイン	29	インド



## 一泊15,000円で宿 泊できる都市

日本から価値ある贅沢な都市型旅行に行きたければ、カイロやワルシャワなら、2012年の平均価格で一泊15,000円以下の5つ星ホテルがあります。

世界各地の27都市には、平均15,000円以下の4つ星の部屋が幅広くそろっています。ヨーロッパではバルセロナ、マドリッド、プラハなど根強い人気の14カ所、アジアではバンコク、上海、台北など8カ所、さらにはドバイ、ラスベガス、マラケシュ、メルボルン、メキシコシティです。

この金額では、東京の他、ロンドン、パリ、ソウルなどの26都市で3つ星ホテルに泊まることができ、ニューヨークやワシントンD.C.などアメリカの5大都市では2つ星ホテルに泊まることができます。

### ワルシャワ



### ロンドン



### ニューヨーク



表 18 主要都市の一泊15,000円で宿泊できるホテルの星評価

都市名	¥15,000	都市名	¥15,000	都市名	¥15,000
カイロ	★★★★★	ミュンヘン	★★★★★	ソウル	★★★
ワルシャワ	★★★★★	オスロ	★★★★★	シンガポール	★★★
バンコク	★★★★★	プラハ	★★★★★	ストックホルム	★★★
バルセロナ	★★★★★	上海	★★★★★	シドニー	★★★
北京	★★★★★	台北	★★★★★	東京	★★★
ベルリン	★★★★★	ウィーン	★★★★★	トロント	★★★
ブリュッセル	★★★★★	アムステルダム	★★★	バンクーバー	★★★
ブダペスト	★★★★★	パリ	★★★	ベネチア	★★★
デリー	★★★★★	カンクン	★★★	チューリッヒ	★★★
ドバイ	★★★★★	シカゴ	★★★	ボストン	★★
ダブリン	★★★★★	コペンハーゲン	★★★	マイアミ	★★
フランクフルト	★★★★★	エジンバラ	★★★	ニューヨーク	★★
広州	★★★★★	香港	★★★	サンフランシスコ	★★
ヘルシンキ	★★★★★	ロンドン	★★★	ワシントンD.C.	★★
イスタンブール	★★★★★	ロサンゼルス	★★★		
ジャカルタ	★★★★★	ミラノ	★★★		
ラスベガス	★★★★★	モントリオール	★★★		
リスボン	★★★★★	モスクワ	★★★		
マドリード	★★★★★	ニース	★★★		
マラケシュ	★★★★★	オーランド	★★★		
メルボルン	★★★★★	パリ	★★★		
メキシコシティ	★★★★★	ローマ	★★★		
ムンバイ	★★★★★	シアトル	★★★		

## 7 星評価別の平均宿泊料金

HPI算出のためHotels.comは、消費者ができる限り予算を活かせるよう、世界の主要都市における星評価別の平均宿泊料金を分析しました。5つ星は割安な8,896円からありますが、平均して49,452円という高額にまで跳ね上がります。特に、特別な機会のためにどこに行くか決める前には、様々な目的地についてあちこち調べるのは当然です。

5つ星で最高は49,452円のニューヨークで、次に47,417円のサンフランシスコ、3位が47,085円のベネチアです。それに続くのが東京で、アジアの5つ星では最も高い平均額43,720円でした。ワルシャワが5つ星の中では最も手頃で、一泊平均8,896円、次いでカイロの14,528円とバンコクの16,385円でした。

マラケシュが4つ星の中で最も低い8,091円で、ブダペストはそれより少し高い8,555円、そしてここでもまたタイの首都バンコクがアジアでは最も手頃な8,753円となりました。東

京はこのクラスで競合するのは厳しく、アジアで最も高い平均額の20,450円でした。

表の一番左の列は予算重視の人向けで、2つ星ホテルで最も手頃な都市は2,494円のバンコクであり、その次は2,681円のデリーと上海でした。ヨーロッパでの格安旅行なら、ウィーンが2つ星で4,364円と優勢で、アメリカなら、ラスベガスが5,265円と格安でした。



表 19 2012年の星評価別平均宿泊料金（通貨：円）

都市名	★★	★★★	★★★★	★★★★★
アムステルダム	8,467	12,081	16,089	23,068
パリ	3,411	7,903	16,389	33,223
バンコク	2,494	4,330	8,753	16,385
バルセロナ	8,381	11,272	14,350	25,544
北京	3,784	5,714	9,446	17,940
ベルリン	5,466	8,371	11,158	18,295
ボストン	14,134	18,946	24,395	36,195
ブリュッセル	該当なし	9,119	12,129	16,900
ブダペスト	該当なし	5,005	8,555	17,588
カイロ	該当なし	2,880	10,695	14,528
カンクン	5,309	13,002	30,293	25,639
シカゴ	8,377	14,505	17,926	34,862
コペンハーゲン	6,901	11,726	16,802	23,106
デリー	2,681	5,335	12,261	17,696
ドバイ	8,039	7,173	14,424	33,821
ダブリン	4,756	8,088	12,676	該当なし
エジンバラ	7,438	11,791	16,552	22,373
フランクフルト	6,246	9,508	11,587	18,034
広州	4,472	5,275	9,957	17,961
ヘルシンキ	6,529	11,191	14,556	22,023
香港	5,807	12,420	19,221	35,922
イスタンブール	該当なし	7,310	12,123	21,861
ジャカルタ	3,774	6,043	10,318	23,009
ラスベガス	5,265	6,786	11,743	20,721
リスボン	5,463	7,441	9,767	16,729
ロンドン	8,276	12,337	20,133	35,508
ロサンゼルス	8,378	14,210	24,484	40,506
マドリッド	5,819	8,055	10,202	19,504
マラケシュ	該当なし	5,725	8,091	22,059
メルボルン	3,560	8,355	14,599	23,856
メキシコシティ	5,138	7,220	14,661	該当なし
マイアミ	9,444	15,312	29,068	該当なし
ミラノ	該当なし	9,250	16,353	39,838
モントリオール	8,813	12,826	17,161	該当なし
モスクワ	該当なし	12,031	15,926	26,778
ムンバイ	該当なし	9,168	12,473	17,078
ミュンヘン	8,120	11,500	14,572	22,339
ニューヨーク	14,420	20,499	28,292	49,452
ニース	該当なし	10,741	21,682	36,596
オランダ	5,486	10,231	18,304	該当なし
オスロ	6,576	12,330	14,841	19,827

都市名	★★	★★★	★★★★	★★★★★
パリ	9,668	14,014	23,649	39,710
プラハ	該当なし	5,929	9,839	18,540
ローマ	7,276	10,440	15,664	32,082
サンフランシスコ	10,481	16,303	22,452	47,417
シアトル	10,062	13,602	19,431	24,676
ソウル	6,559	10,986	15,356	26,977
上海	2,681	5,690	9,361	21,432
シンガポール	7,238	12,938	19,727	35,711
ストックホルム	8,988	12,489	17,013	23,213
シドニー	4,114	10,700	16,579	26,500
台北	5,645	9,113	14,575	28,244
東京	7,211	10,730	20,450	43,720
トロント	9,232	12,094	18,294	該当なし
バンクーバー	8,987	11,973	18,159	28,845
ベネチア	8,783	14,518	20,968	47,085
ウィーン	4,364	10,868	11,462	23,509
ワルシャワ	該当なし	6,480	9,105	8,896
ワシントンD.C.	11,056	15,581	20,727	27,194
チューリッヒ	該当なし	14,151	18,558	28,264

## ホテルの星評価について

世界共通の星の格付けシステムは存在しません。各国にはそれぞれのシステムがあり、イギリスのように複数のシステムを持つ国もあります。このため、旅行者は、異なる国の同じ星評価のホテルを予約する際には基準や施設に差のある可能性を承知しておく必要があります。

表 20 5つ星が最も高価な上位10都市  
(通貨：円)

都市名	価格
ニューヨーク	49,452
サンフランシスコ	47,417
ベネチア	47,085
東京	43,720
ロサンゼルス	40,506
ミラノ	39,838
パリ	39,710
ニース	36,596
ボストン	36,195
香港	35,922

表 21 5つ星の宿泊料金が最も手頃な上位10都市 (通貨：円)

都市名	価格
ワルシャワ	8,896
カイロ	14,528
バンコク	16,385
リスボン	16,729
ブリュッセル	16,900
ムンバイ	17,078
ブダペスト	17,588
デリー	17,696
北京	17,940
広州	17,961

## 低料金で贅沢を

低料金の最高級ホテルを探す日本人旅行者は、2012年に世界中で5つ星や4つ星の平均料金が大幅に下落したことで恩恵を受けることができました。

ヨーロッパの経済危機のおかげで、贅沢な旅がかなり安くなりました。5つ星で最も下落したのはヨーロッパのエジンバラで、20%下落して22,373円になり、ワルシャワは17%下落の8,896円、リスボンは12%下落で16,729円になりました。日本近辺では、表中で唯一アジアのデリーで、平均価格が10%下落し17,969円となっています。

4つ星では下落したところがさらに多く、やはり主にヨーロッパで、モスクワは18%下落の15,926円、次いでストックホルムが15%下落で17,013円、ジュネーブが13%下落で21,250円、ローマが12%下落で15,664円となっています。しかし二桁台の下落は他にもあり、やはり表中のデリーでは13%下落の12,261円、サンパウロでも13%下落で18,290円、ワシントンD.C.では12%下落し20,727円、ケープタウンでは11%下落し11,925円でした。



表 22 2011年から2012年に最高級ホテルの料金が下落した都市(通貨:円)

都市名	星評価	2012	2011	変化率
エジンバラ	5	22,373	27,842	-20%
モスクワ	4	15,926	19,439	-18%
ワルシャワ	5	8,896	10,761	-17%
ストックホルム	4	17,013	20,021	-15%
ジュネーブ	4	21,250	24,558	-13%
デリー	4	12,261	14,148	-13%
サンパウロ	4	18,290	20,907	-13%
ワシントンD.C.	4	20,727	23,678	-12%
リスボン	5	16,729	19,020	-12%
ローマ	4	15,664	17,780	-12%
ケープタウン	4	11,925	13,412	-11%
オスロ	4	14,841	16,642	-11%
プラハ	4	9,839	10,983	-10%
ミラノ	4	16,353	18,248	-10%
フランクフルト	5	18,034	20,054	-10%
デリー	5	17,696	19,658	-10%
ブリュッセル	4	12,129	13,447	-10%
ブダペスト	4	8,555	9,439	-9%
ウィーン	4	11,462	12,559	-9%
ブエノスアイレス	4	12,953	14,095	-8%



## 旅行の傾向

### 日本人旅行者に人気の海外都市

日本人旅行者は2011年と比べ2012年は冒険的で、より遠くの様々な目的地に向かい、ヨーロッパの人気が増しました。人気の海外旅行先リストにはアジアから8カ所、アメリカとヨーロッパから各6カ所の目的地が入っています。

新しく加わったのはミラノ、ホーチミン、クアラルンプール、ミュンヘンの4カ所で、日本と中国の政治的緊張が影響したためか、北京がリストから外れた他、タムニン、シドニー、

バンクーバーも外れました。その他リストの順位を下げたのは、2つ下げて7位の香港と、5つ下げて11位の台北でした。

逆に4カ所が順位を2つ上げ、バンコク5位、シンガポール6位、上海8位、そしてオリンピックが開催されたロンドンが9位でベストテン入りしました。

全体としてはアメリカが最も人気のある国で、1位のホノルルや3位のニューヨークをはじめ、6カ所の目的地がランクインしました。アジアの都市ではソウルが最も人気が高く2位で、やはりパリが、ヨーロッパで一番の人気を保ち4位になりました。

### 外国人旅行者に人気の国内都市

2012年外国人旅行者に人気の日本の目的地リストに、新たに加わった目的地はありませんが、リスト内でいくつかの動きがありました。

主要都市である東京、大阪、京都、福岡は、2011年ランキング同様、上位4位を維持。札幌と名古屋が入れ替わり、北海道の道庁所在地札幌が順位を上げました。広島が1つ下げ、代わりに那覇と横浜が2つずつ上がりました。



ニューヨーク

表 23 2012年日本人旅行者に人気の海外都市

順位	都市名	順位	都市名
1	ホノルル	15	ミラノ
2	ソウル	16	バルセロナ
3	ニューヨーク	17	ホーチミン
4	パリ	18	クアラルンプール
5	バンコク	19	サンディエゴ
6	シンガポール	20	ミュンヘン
7	香港		
8	上海		
9	ロンドン		
10	ロサンゼルス		
11	台北		
12	ラスベガス		
13	サンフランシスコ		
14	ローマ		

表 24 2012年外国人旅行者に人気の国内都市

順位	都市名
1	東京
2	大阪
3	京都
4	福岡
5	札幌
6	名古屋
7	那覇
8	横浜
9	広島
10	神戸

## 旅行の話題

### ナイトライフのための最高の都市は、ニューヨーク!

Hotels.comが行った調査によると、最高のナイトライフのために訪れるべき都市はニューヨークであることが分かりました。

全世界の27,000人を対象にナイトタイム・エンターテインメントに関する調査を行った所、世界中を旅する旅行者は、ニューヨークを第一位に、ギャンブラーの楽園であるラスベガスを第二位に、そしてロンドンを第三位に選出しています。

1位、2位はアメリカでしたが、トップ10中の6都市にはヨーロッパから選ばれています。ロンドン、パリ、バルセロナ、ベルリン、アムステルダムとマドリッドが名を連ねたのに加え、ロサンゼルスとアジアから唯

一ランクインしたバンコクもトップ10を飾っています。

Hotels.comのアリソン・クーパーは、「ニューヨークとラスベガスはいつでも旅行者に素晴らしいアドベンチャーを提供してくれます。そして、世界中の旅行者にとってヨーロッパ各都市の多様性は、ヨーロッパの都市を魅力的でエキサイティングなものにしているのではないのでしょうか。ベルリンのクラブ、水上レストランとコーヒーショップ文化のあるアムステルダムや、小さなくつろげるバーやライブハウスのあるパリなど、ヨーロッパ大陸では数多くの様々な経験をする事ができるのです。」とコメントしています。



## タクシーサービス調査において、ロンドンが5年連続世界1位を獲得

旅行者は7つのカテゴリー（乗心地、価格、利便性、道の把握度、清潔さ、接しやすさ、安全性）から選び、ロンドンのブラックキャブが接しやすさ、道の把握度、清潔さ、安全性と乗心地で1位を獲得しました。利便性ではニューヨークが1位に選ばれ、価格はバンコクが1位に選ばれています。

ロンドンとニューヨークが去年に引き続き1位と2位に並びましたが、アジア地域のタクシーも健闘し、東京、上海、バンコクがトップ5にランクインしました。

また今回の調査では、以下の様なことも判明しています。56%の回答者はタクシーの中で寝てしまったことがあり、19%は化粧または髪の設定をすると答えています。また、26%はタクシーの後部座席でキスしたことがあると答え、片方の靴や生魚など奇妙な忘れ物があったことも明らかにになりました。

「タクシー調査」についてこの調査は、旅行者向けに世界のタクシーサービスに関して7つのカテゴリー（乗心地、価格、利便性、道の把握度、清潔さ、接しやすさ、安全性）をもとに実施されました。2012年7月に28カ国の1,600人以上を対象に行われ、加重平均で表示されています。



11%

ロンドン



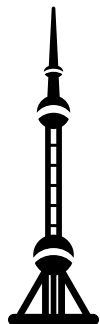
6.4%

ニューヨーク



5.6%

東京



4.8%

上海



4.3%

バンコク

## 「ホテル・アメニティー調査2013年度版」発表

Hotels.comが行ったアメニティーに関する調査によると、世界中の旅行者はホテルに滞在中であっても我が家のようにくつろげる空間を求めていることが明らかになりました。そして、最も重視するアメニティーの上位には、無料のWi-Fi、食事とカフェイン入りのドリンクが選ばれています。

常につながってほしい・・・  
無料で!

休暇の場合、日本人回答者の36%が無料Wi-Fiが最も重要と回答しました。また、世界の回答者のうち34%が、出張だけではなく休暇で宿泊するホテルを選ぶ最大の決め手に無料Wi-Fiの有無と答えています。

出張の場合、日本人回答者の48%が無料Wi-Fiが必要不可欠と回答しました。また、世界の回答者のうち56%が、出張で宿泊するホテルでの必要不可欠なアメニティーは無料Wi-Fiだと答えています。

世界の回答者のうち66%が、全ホテルに無料Wi-Fiを設置して欲しいと答え、日本人回答者の69%も全ホテルで取り扱って欲しいと、最も多い回答を得ています。

FacebookやTwitterなどのSNSが広がる中、旅行の目的に関わらず、無料Wi-Fiが無料駐車スペースや朝食の無料サービスを凌ぐホテルで欠かせない大切なアメニティーであるという結果になりました。30%を超える旅行者が休暇中でもインターネットへのアクセスを希望しており、無料Wi-Fiは現代において必要不可欠なアメニティーであるようです。実際、11%の世界の回答者から、また16%の日本人回答者からWi-Fi接続のためにお金を支払っても構わないという回答を得ています。

テクノロジーがもたらす恩恵  
好みの「モダン」室内アメニ  
ティー

無料Wi-Fiだけではなく、その他の機器もホテルで欠かせないアメニティーの上位に位置しました。世界の回答者のうち23%が、最高級コーヒーメー



ロンドン

カーをアメニティーの上位に選んでいます。また20%の回答者は照明の調節、テレビ、ブラインド、室温調整、ルーム・サービス等が全て1台で管理できるコントローラーを希望し、15%はホテル支給のタブレットとWi-Fi無料の使い放題サービスでホテルサービスや情報収集の手配までをこなしたいと考えています。日本人旅行者の回答では、28%が最高級のコーヒーメーカーが一番と回答し、その次にはマッサージチェアあるいは足専用のマッサージ・マシン (23%) が好きな室内なアメニティーと回答しています。

### 重要なのは些細なこと 最もシンプルで喜ばれるアメニティー

旅行をする際に大切なことは、シンプルながら水分補給であるようです。世界の回答者のうち43%が無料のボトル入りミネラルウォーターが最も嬉しいアメニティーであると答えています。日本人回答者も49%が無料のボトル入りミネラルウォーターをもっと多くのホテルで取り扱って欲しいと回答しています。しかし、台湾、

香港、そしてブラジルでは、無料アダプターをボトル入りミネラルウォーターよりも上位に選んでいます。

### 旅行者のハートを掴むには まずは胃袋から

世界の回答者のうち31%が、朝食の無料サービスが機器設備以外のサービスの中で特に気に入りで、全ホテルでこのサービスを提供して欲しいと答えています。日本人回答者の43%も同じように回答しています。

世界の回答者のうち42%が、新しく始まったサービスの中でハッピーアワーやワインのテイastingといった無料飲食サービスを最も気に入りのアメニティーに選び、続いて19%の回答者が朝食のインターナショナルメニューオプションを2番目に選んでいます。

日本人旅行者も食関連には特に関心が強く上位3位を占め、1位は選択可能な各国の伝統的朝食メニュー (35%)、続いて朝食のテイクアウト (21%)、そして3位がハッピーアワーやワイン・テイasting、試食/試飲会(20%)でした。

世界の回答者のうち23%は、無料フード・ドリンクサービス、滞在中に最も必要性を感じるサービスであると答えました。また別の14%の回答者は、自宅と同じキッチンが最も必要と答えました。日本人の回答ではベッド(35%)が最も必要性を感じる家と同じアメニティーであり、その次にはバスタブ(31%)が選ばれました。

### 日本人が選ぶ最も良いアメニティーのある国... 第一位は、日本

37%の日本人回答者は30カ国中、「日本」が最も良いアメニティーのある国と回答し、2位に倍以上の差をつけました。

順位	国名	%
1	日本	37%
2	アメリカ	15%
3	タイ	11%

また半数以上の日本人は、日本のホテルのアメニティーに満足していると回答し、15%は非常に満足と回答しています。

## HOTELS.COM 2012年の ハイライト

2012年は、Hotels.comにとって重要な節目を迎え、特筆すべき成果を上げることができた意義ある1年となりました。

3月に新たなブランド戦略を、新しいカラフルで目立つロゴ、見出し、広告とともに発表しました。この20年間、Hotels.comは電話を使った販売会社から、主にウェブを使った企業へ、そして現在の世界規模のウェブ、電話、ソーシャル、モバイル一体型予約ビジネスへと進化してきました。そこでブランド戦略も業界世界最大手としての位置付けを反映すべきと考えました。

Hotels.com利用者向けのロイヤリティプログラム Welcome Rewardsは、主要市場において、追加の特典のある2つの新しいレベルをスタートしました。年間10泊予約するとシルバー会員、30泊でゴールド会員になります。

iPhone、Android、タブレット端末用のモバイルアプリに加え、Windows 7・8用

のアプリケーションを開発しました。合計で年末までに、Hotels.comのアプリとアプリケーションは、2011年の提供開始以来1,200万回以上ダウンロードされています。

年内に2つの新しいウェブサイトを立ち上げました。アメリカのヒスパニック系顧客に向けたスペイン語版と、イスラエルの既存の英語版に加わったヘブライ語版です。Hotels.comの利用をより身近にしたいという思いを、ローカライズした、関連性が高く魅力の大きな内容のサイトを増やし表しています。

イギリスのサイトは2012年に10周年を迎えました。これは2002年に立ち上げたHotels.comの最初の国際的ウェブサイトで、今も最も重要なサイトの1つです。

Hotels.comはこれまでに数々の賞を受賞していますが、2012年はさらに多くの賞を受賞しました。

Byte Level Research社が選ぶ最優秀グローバル・ウェブサイトのベスト5に選ばれました。同社の報告は各ウェブサイトグローバルリーチ、グロ

ーバルナビゲーション、グローバル/モバイルアーキテクチャ、ローカライゼーション、社会的取り組みについて評価しています。

キーノート・コンペティティブ・リサーチの調査により、再びアメリカで最優秀総合顧客体験賞に選ばれ、イギリスでは最優秀ブランド賞を受賞、さらに最優秀総合顧客体験賞、転換力賞、顧客満足賞で2位となりました。

イギリスで、国内で最もクールなブランドを選ぶ、影響力のある毎年恒例の調査で、「クールブランド」として正式に認定されました。

ロシアでは、新設の「マイ・プラネット賞」の、最優秀予約サイト部門で受賞、最優秀モバイルアプリ部門でノミネートされました。

年末には、Expedia.com Ltdグループの子会社であるイギリスのHotels.comが、サンデー・タイムズの毎年恒例の調査で、最も働きがいのある企業ベスト100に選ばれ、最も高い3つ星評価を受けました。

# 1500 万

Hotels.comのモバイルアプリダウンロード数

# 700 万

実際にホテルに宿泊した利用者のカスタマーレビュー数

# 20 万

サイト上で予約できる施設数

# 85 以上

世界のローカライズされたHotels.comサイト数

# 35

言語数



## HOTELS.COM について

Hotels.comは、最大手のオンライン宿泊予約サイトで、国際ホテルチェーンやオールインクルーシブリゾートから、地元の人気ホテルやB&Bまで世界約20万施設を、理想的な宿泊の予約に必要なあらゆる情報とともに提供しています。85以上のHotels.comサイトがヨーロッパ、北米、中南米、アジア太平洋、中東、南アフリカといった世界規模で運営され、そのほとんどがその地域の言語にローカライズされています。日本のサイトは2004年に開始されました。一番新しいサイトは2012年にできたヘブライ語サイトです。

Hotels.comは、業界最大のホテル契約団体の1つとして、利用者のために最良の料金を交渉するとともに、セール、特別サービス、プロモーションを数多く提供しています。お客様向けのメール配信では、限定割引や次回のセールのお知らせをお届けしています。実際にホテルに宿泊したユーザーからのサイト上のレビュー数は700万以上あり、利用者が予約時に十分な情報に基づいて選択を行えるようにしています。

どこでも利用できる業界トップのロイヤリティプログラム Welcome Rewardsでは、jp.hotels.comに記載の同プログラム利用規約に従い、85,000以上のホテルで宿泊10泊ごとに1泊分の無料宿泊特典が受けられます。価格保証プログラムでは、支払済みのホテルについてより安い料金を見つけた場合に、jp.hotels.comに記載の価格保証規約に従い、Hotels.comから利用者に差額が返金されます。

予約はオンラインまたは多言語コールセンターへ連絡することで可能です。携帯電話・スマートフォンやタブレット端末用の専用アプリもjp.hotels.com/otoku-joho/mobile\_jpからダウンロードでき、2万件の直前割引にアクセスしての外出先からの予約が可能です。

Hotels.comは、世界的に有名なブランドをはじめとする幅広いポートフォリオを有する世界最大のオンライン旅行会社Expedia Inc.の子会社です。Hotels.comのFacebook、Twitter、YouTubeページもご覧ください。

## 詳細についてのお問い合わせ

詳細、マスコミ取材、世界各地の  
広報担当者に関するお問い合わせは、  
Hotels.comまでご連絡下さい。

Hotels.com 日本 広報事務局  
(共同PR内)  
國時真紀、井口了太  
hotelsteampr@kyodo-pr.co.jp  
03-3571-5326

## Hotels.com

Zoe Chan (香港)  
zchan@hotels.com  
+852 3607 5719

Yvonne Bonanati (ロンドン)  
press@hotels.co.uk  
+44 020 7019 2428



© 2013 Hotels.com, L.P. The Hotel Price Index (HPI®)の調査および内容は、Hotels.com, L.P.の著作権です。  
無断複写・転載を禁じます。本調査を引用する際は、www.hotels.comと明示してください。